

第4回

太田地域協議会会議録

と き : 平成18年3月28日 午前9時30分～

と ころ : 太田文化プラザ「多目的ホール」

第4回太田地域協議会

平成18年3月28日(火曜日)

議 題

(1) 地域協議会の提案事項に対する回答について 資料2

(2) 大仙市総合計画について 資料1

出席委員(18名)

委員	加藤進	委員	佐々木ミネ子
委員	伊藤昭子	委員	鈴木弘之
委員	大信田康雄	委員	高橋美紗緒
委員	草薨太郎	委員	田口誠毅
委員	倉田良子	委員	田口良平
委員	小松一男	委員	福原榮司
委員	小松誠代	委員	藤澤由希子
委員	今野雅代	委員	藤原鈴司

職 員

大仙市長	栗林次美	総合政策課長	小松辰巳
企画部総合政策課主幹	相馬幸則	太田総合支所長	鈴木龍一
太田総合支所次長	鷹觜均	太田総合支所地域振興課	高橋共男
太田総合支所地域振興課副参事	鈴木喜一	太田総合支所地域振興課主査	谷口藤美
太田総合支所地域振興課主査	小松明彦	太田総合支所地域振興課副員	鈴木ちかし

午前 9時 30分 開 会

地域振興課長

おはようございます。本日は、大変お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。本日の地域協議会は、委員の2分の1以上が出席しております。

すので、大仙市地域自治区設置等に関する条例第9条第3項の規定により、本会議は成立したことをご報告いたします。それでは早速会を進めたいと思います。最初に加藤会長ご挨拶をお願いいたします。

加藤会長

本日は、委員の皆さん朝早くからご出席いただきまして本当にありがとうございます。また、市長はじめ市の職員の方々から年度末であります、ご出席いただきましてありがとうございました。今回の地域協議会は4回目というようなことですが、2月に開催する計画を立てておりましたが、いろいろ事情がありまして遅れたことについてお詫びを申し上げます。本日はよろしくお願ひ申し上げたいと思います。今日は市長さんもみえてもらって、ご説明してもらえるのではないかと思います。市長さん、よろしくお願ひします。

地域振興課長

ありがとうございます。続きまして、市長のごあいさつお願ひいたします。

大仙市長

おはようございます。太田地域協議会の開催にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。委員の皆様には地域自治区の設置により、地域協議会を置くこととなり、全国的にも先例が少ない状況の中、地域分権時代のキーワード「住民の行政参画」「住民との協働」の趣旨をご理解され、お忙しいなかで月1回のペースで協議会を開催していただきまして誠にありがとうございます。また、当地域におきましては、大仙市管内での先進的な取り組みをしております。昨年、滝沢村の元助役さんをお呼びしましたが、この方のご主人が宮古市長さんです。市長会でご一緒させていただいております。講演会にも参加したいと思いましたが、日程の都合がつかなくて参加できませんでした。そして、この前は落語家のかたをおよびして、地域協議会の委員の皆さんが中心になっているんな地域の地域づくりについて話し合っただいて、大変すばらしい取り組みであると思ひます。こうした良い事例を全市に広めていけたらいいと思うのでよろしくお願ひします。

今年の冬は、大変な雪でありまして皆様の雪との格闘を余儀なくされたことと思ひます。残念ながら大仙市内では、死者4名と負傷者36名の人的被害のほか住家や農業施設が倒壊や損壊の多くの被害を受けました。

市では、1月10日に豪雪対策本部を設置し、相談体制の充実や除雪体制の強化、市街地の集中的な除排雪に、早めに取り組み、市民生活に支障がないよう努めたところであります。少し除雪の予算が多くなりましたけれども四八豪

雪以来、地域によっては四八豪雪よりも雪が多くなりましたので、除雪対策を行いました。したがって、この件につきましては国土交通省の特別予算要求ということです。

この間、JA秋田おばこの職員の皆さんや市内中学校による除雪ボランティア、総合支所ごとに除雪隊を編成し、公共施設の除排雪作業及び一人暮らし高齢者世帯の雪下ろし等を実施いたしました。

さて、大仙市はちょうど1年が経過しました。合併して1年になりますが、誕生からこれまで、まだそれぞれの課題をかかえながらも着実に新市の基礎づくりが進んでいることは、地域協議会の委員各位並びに多くの市民の皆さんのご協力とご支援を受けながら進めている賜と感謝申し上げます。

私、昨年4月に市長に就任して以来、「市政は市民のために」を基本理念として、情報公開や説明責任による開かれた市政の推進、住民参加よりさらに踏み込んだ「市民と協働のまちづくり」、職員が常に市民の目線に立ち、現場に足を入れ、市民と一緒に汗をかき、行政情報を出来る限り分かりやすく市民に提供する体制づくりに努めてまいりました。平成18年度におきましても、その姿勢を変えることなく市政運営に努めてまいりたいと思います。

また、今年は大仙市の10年間の総合計画のスタートの年になります。この計画は、合併協議でつくりました大仙市まちづくり計画を基本としています。より財政の裏づけなどをしながら、しっかりとした10年間の計画を組むということでもあります。基本構想、基本計画、その下に5年間の実施計画をおきまして、今、最終的な事業の調整を行っているところでありますので、詳しくは6月くらいに5年間の何をどのくらいの予算でやる、という実施計画を出せると思います。

ただ、年々の国の状況、あるいは、市町村の様々な変化がありますので、1年ごとに再検討を行いながら10年間の計画を進めていけたらと思っております。

そうしたなかで、大仙市の目玉事業として実施しております、小学校卒業までの「医療給付扶助」や満2歳未満児への「すこやか子育て手当金支給事業」を、大仙市子育て支援策の主要な施策ととらえ、今後も継続できるよう制度の見直しを図りながら実施してまいりたいと存じます。

また、高齢化の顕著な地域事情に沿った、「介護予算事業」や「高齢者支援策」を進めてまいります。

また、地域医療の中核病院であります仙北組合総合病院の移転改築です。この問題に積極的に取り組むとともに、現在事業を進めております一般廃棄物最終処分場などを公害の出ない安全なものを着実に完成させ、安全で安心な暮らしの基盤を構築してまいります。

それから、真木ダムの建設中止を受けまして、県と大仙市で代替案についての検討して参りました。2月10日に正式な報告がありました。

治水対策につきましては、斉内川の河道改修により、事業着工から概ね10年で治水安全度20分の一を確保し、将来的には遊水池又は放水路で治水安全度50分の1を確保するとするものであります。

水道水源につきましては、斉内川は年間を通して水量を確保することが難しく、水利権を確保することが困難なこと、玉川の伏流水、仙北南地区へ供給する大曲地域の水道及び地下水の三案については水質に問題がなく、水道水源として可能であると報告を受けております。

また、維持流量につきましては、既存幹線用水路により斉内川に導入することを検討しましたが、現状の施設では、経年劣化等から困難であり、今後の利水動向を踏まえ、維持流量の確保の可能性を探るとするものであります。この件に関しては、大きな改正が必要だということで、今計画されているところであります。

治水対策は県が実施するものでありますが、できるだけ早期の整備を県に要望し、地域住民の安全の確保を図ってまいります。

次に、総合計画の関係ですが、大仙市は総合計画の前期5カ年を、大仙市建設の基礎づくりの時期と位置づけ、市全体のバランスを考慮しながら、農林業振興、商工業・雇用対策・都市計画、子育てと教育、医療・保健・福祉、芸術文化スポーツ、情報基盤など、各分野における重要課題の解決に向けて取り組んでまいります。

また、市民との協働のまちづくりを推進するため、平成18年度から地域振興事業いわゆる地域枠事業を実施いたします。

地域振興事業は、各総合支所が地域協議会委員の皆様と協議しながら、自主的・主体的な市民活動の支援や地域が抱える様々な課題に対して、現地即決対応するための事業としております。地域枠予算として大曲地域1,000万円、その他の地域各500万円を予算計上させていただいております。

また、地域協議会委員の皆様を対象にした基調講演、意見交換会をメインとした研修会や、委員の皆様と総合支所の協議による視察研修等を実施し、新たな考え方も取り入れた活性化事業を考えたところであります。

平成18年度当初予算は、市税収入が低い水準にあることや、合併支援補助金の減、三位一体改革の推進による国庫補助・負担金の削減、地方交付税制度の見直しや人口減少により、歳入全体の伸びが期待できないことから、大変厳しい編成となりました。

予算編成にあたっては第一に旧八市町村の既存の考え方にとらわれず、住民要望を十分把握し、真に必要な事業費をゼロから積み上げること、第二に合併

協議会で協議された事項であっても、現在の厳しい財政事情を勘案して、事務事業の規模、必要性、優先順位等について、大仙市として統一した考えの基で検討することとし、普通建設事業につきましても、旧八市町村で持ち寄った計画をすべて実施することは、現在の市の財政状況では困難であり、大仙市全体の中で財源を含めて見直しをいたしました。

その結果、一般会計は443億8,950万円で、前年度比較2.6%減、これに特別会計、企業会計に合わせた本市の予算額全体は805億5,608万7千円であり、前年度比較で2.0%の減となっております。

太田地域における主要事業についてご説明申し上げます。旧太田町時代から実施しております、むらづくり交付金事業につきましては、平成14年度に策定しました「太田地域農村振興基本計画」に基づき実施している事業であります。農業集落道の改良・舗装などを計画的に進めてまいります。また、薬師登山道公衆トイレ整備事業につきましては、県単独事業として行われるもので、市がその2割を負担するものであります。町史編さん事業につきましては、平成14年度から5カ年計画で実施してきた最終年度であり、事業内容は、通史、写真集などの発行を予定しております。

こうした総合計画の将来都市像の実現を目指して頑張っていきたいと思しますので、これまで以上のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。

加藤会長

それでは、早速協議会に入りたいと思います。本日の説明者といたしまして、本庁総合政策課、地域づくり課より課長、担当職員が出席しております。よろしく申し上げます。

議事録作成の関係上、ご質問ご意見など発言される方は、挙手してマイクを使用していただきたいと思います。

議事録署名員をご指名いたします。小松誠委員と今野雅代委員をお願いいたします。

それでは、お手元の会議次第に基づいて進めさせていただきます。最初に説明事項(1)地域協議会の提案事項に対する回答について 市長さんよろしく申し上げます。

大仙市長

太田地域協議会からのご提案にお答え申し上げます。

「高齢者の入湯助成(ふるさと館)について」であります。合併前の各市町村の単独事業につきましては、合併協議会で合併後再編または廃止とされてお

り、全市で対応できる事業については18年度から全市で行うこととし、地域限定の事業については廃止の方向で予算編成されております。

太田地域の高齢者入湯助成事業につきましては、同一の形態で全市に拡大するには、約2億円の財源が必要であること、高齢者福祉の均衡あるサービス提供の観点から、この事業に代わるものとして「温泉ふれあい入浴サービス事業」を18年度から実施することとしました。

新しい事業は、市内の市直営、3セクの入浴施設に市内に居住する70歳以上の高齢者が入浴する場合に助成するもので、70歳以上79歳までは半額助成券を、80歳以上の方には無料券を、各15枚以内でお渡しするものであります。

以上、厳しい財政状況、サービスの均一化の趣旨のもと生まれた新しい制度に、みなさまのご理解、ご協力をお願いするものであります。

加藤会長

ありがとうございました。何かご意見、ご質問ありますか。

ないようですので、次に移らせていただきます。

次に、大仙市総合計画について、総合政策課長よりお願いいたします。

総合政策課長

それでは、私からこの度大仙市議会で議決をいただきました大仙市総合計画についてご説明いたします。

はじめに策定の経緯でございますが、大仙市合併して1年になりました。合併に際しまして、合併特例法で定めてあります市町村建設計画、いわゆる大仙市まちづくり計画というものが作成されております。この大仙市まちづくり計画でございますが、合併後10年間のまちづくりの方向性を示したものです。しかしながら、策定された時点から3年近く経ちまして、この間に国からの地方情勢に対する制度が大幅に変わってございます。特に、国の構造改革に伴う三位一体改革などによる地方財政の悪化は、非常に大きい状況になっております。このようなことから、大仙市まちづくり計画、これは合併前の旧市町村の事業計画を基に作成されたものでございましたが、そのまま、まちづくりを進めることは現在の大仙市の財政状況では困難であるため、大仙市としての基本構想の策定を急いだところでございます。

次に総合計画の策定の考え方について弱冠ご説明いたします。総合計画の策定にあたりましては、市民4,000人を対象とした市民意識調査や公募委員を含めたワークショップの開催、各地域協議会での説明などを行い、できるだ

け市民の声を計画の中に反映させていただきました。また、大仙市まちづくり計画につきましては、専門のコンサルタントに委託して作成いたしました。この度の総合計画につきましては、「自分たちの計画は自分たちがつくる」という市長の方針を受けまして、総合政策課が中心となりまして市の若手職員や民間のみなさんに参加してアドバイスしていただきながら作成したものです。

次に、総合計画及び基本構想、基本計画についてご説明いたします。総合計画の基本構想につきましては、平成18年度から初年度といたしまして27年度までの10年間の構想でございます。基本計画につきましては、現在の社会情勢、経済情勢に非常に流動的な点がございまして、平成22年度までの前期5カ年計画として策定させていただいております。そのようなことから、基本構想と基本計画は別冊として作成してございます。また、基本構想及び基本計画には、大仙市内31校の小学校のなかで平成27年に成人いたします現在の5年生、それぞれ各校1枚ずつ10年後の大仙市という題で、絵を描いていただきまして、その絵を基本構想、基本計画に使用させていただいております。

それでは、大仙市総合計画の基本構想の概要につきましてご説明いたします。大仙市総合計画概要版をご覧ください。まず、最初に概要版の表紙をご覧くださいと思いますが、今回の基本構想、基本計画のタイトルに「わたしたちの大仙市」というものを使わせていただきました。

基本構想の期間、先ほど言いましたとおり平成27年度までの10年間の計画でございます。1ページを開いてください。大仙市総合計画の将来都市像でございますが、「人が生き人が集う夢のある田園交流都市」といたしております。その将来都市像の考え方でございますが、新たな産業、雇用の創出や市内外との交流人口の拡大を促進するほか、既存の都市機能に加え自然環境、田園との調和を図りながら安らぎと居住性、快適性の高い都市空間の創出に努め、人が生き・集うような魅力ある地域、安心して暮らせる地域の創造をめざすというものです。

基本計画につきましては、前期5年間として策定してございます。また、実施計画につきましては、毎年見直しを図りながら進めていくということでございます。今回策定いたしました実施計画は、各事業の実施予定年次を示すものとして策定してあります。ただ、財政が非常に厳しい状況でございまして、すべての事業を行うことは困難ですので、ある程度平成18年度の予算編成をベースに事業の見直しをしているところです。この実施計画につきましては、現在平成18年度の6月頃にかけて、再度財政計画、財源等にリンクさせまして、より精度の高い実施計画を策定いたしまして、皆様のところにも配布したいと考えておりますのでよろしく申し上げます。

次に、2ページの中ほどに大仙市の将来人口というものがございます。これ

について、ご説明します。大仙市の将来人口ですが、平成27年度の想定人口を83,000人と推定しております。これは、今年度実施いたしました平成17年国勢調査での人口が、速報値でございますが、93,352人となっております。平成12年の旧8市町村の国調人口が98,326人でありますので、この5年間で4,975人、約5,000人が減少しております。ちなみに、合併時作成いたしました大仙市まちづくり計画、こちらでどのように人口をみていたかというのと、平成17年の人口を95,472人、平成27年の人口を87,932人と推測しております。合併時、この計画を策定いたしましたときよりも、一段と人口の減少傾向が加速しているという状況でございます。

次に、3ページをご覧くださいと思います。こちらには、将来都市像を実現するための基本理念というものを記載しています。「人が生き地域が輝くまち」「人が集い地域が躍動するまち」「ともに支え合い笑顔と豊かな心に出会うまち」この3つを基本理念として掲げています。

4ページですが、こちらは重点的な3つの取り組みを記載しております。これは、市民意識調査などを踏まえ、現在の厳しい財政状況の中で今後10年間、基本構想の期間に特に重点的に取り組む施策です。まず、保健・医療・福祉分野では「支え合い、ともに生きる健やか安心大仙の構築をめざします」というもので、子育て環境と支援体制の充実や、市民すべてが支え合いともに生きる社会の構築を目指すものです。

次の、若年層の雇用確保と地域活力の創出は、産業・雇用分野で既存企業の支援や、雇用機会の拡大により若年層の地域定住の促進、地場産業の育成や福祉分野での雇用の拡大をめざします。次の生活基盤分野では、生活の基盤である道路・上下水道の整備を計画的に進めるというもので、幹線ネットワークの構築や市民の要望に対応した生活道路の整備、高齢者、障害者等の交通確保に関わる交通システムを検討するというものでございます。

5ページ6ページをご覧くださいと思います。将来都市像「人が生き人が集う夢のある田園交流都市」を実現するため、市政の各分野における6つの施策の柱を設定し、まちづくりの基本的な方針を示しています。健康・福祉分野での「安心して健やかに暮らせるまちづくり」、教育分野の「未来を創り心豊かな人を育むまちづくり」、産業分野の「生き活きと希望を持って活躍できるまちづくり」、都市・基盤分野の「生活の基盤が整ったまちづくり」、環境・安全分野の「環境と調和し快適で安全に暮らせるまちづくり」、地域情報・交流分野の「仲間とふれあいともに活躍できるまちづくり」の6つです。さらに、それぞれの分野でいくつかの大綱があります。この基本構想での30の大綱に基本計画ではさらに2つ計画の推進にあたってという項目を設けまして、32の大綱ごとに現状と課題、基本方針、取り組む概要を記載しております。

次に最後のページをご覧くださいと思います。「基本構想の実現に向けて」ということで、大仙市の経営方針として2つの大きな項目を掲げています。行財政運営の効率化。市民との協働。この2つをさらに2つに分けて、4つを大仙市の経営方針とさせていただきます。 効率的・効果的な行政運営 は、事務事業や施策の総合的評価と優先度を踏まえた事業展開を行うほか、類似施設の統廃合や未利用所有地の活用を図るとともに、職員一人ひとりおよび組織としての施策立案能力の向上をめざすものでございます。 健全で計画的な財政運営 は、行財政改革の推進や予算の重点配分・傾斜配分などによる効率的・効果的な財源の配分を行い、最小の経費で最大の効果を上げる施策・事業システムを構築するものです。 開かれた行政への取り組み は、行政や事業計画などに市民や事業者が参画・協働の機会を保障するまちづくりシステムを構築し、市民や事業者等が地域経営に主体的に取り組むために、必要となるまちづくりに関する情報を広報やインターネットなどにより提供を行うほか、情報公開コーナーの充実を図り、市民からの情報の請求・照会に迅速に応えるようにするものです。 自立・協働によるまちづくり は、市民や事業者が自治意識の醸成を図るとともに、市民参加の枠組みの整備や多彩な地域づくりの実施など、協働型のまちづくりが進むような施策を展開するものです。以上が、基本構想の説明でございます。

財政計画について、ご説明したいと思います。基本計画書をご覧くださいと思います。基本計画書の113ページを開いてください。こちらに、財政見通しを記載しております。市の財政状況でございますが、平成16年度の決算の計上収支比率が98.4%というものが示すとおり、非常に硬直化が進んでおります。また、自然収入が依然低い状況にあり、大幅な好転が望めないこと、合併支援補助金の減、三位一体改革による国庫補助金の削減、さらには地方交付税制の見直しや、人口の減少などにより今後も厳しい財政状況が続くと推定されてございます。市といたしましては、人件費の削減や平常経費の縮減に努力してまいりますが、それでも、かなり厳しい財政見通しとなっております。普通会計ベースでの財政計画は、ここに記載しております通り、歳入では平成17年度の504億円に対し、22年度では415億円、約82%程度と見込んでおります。特に、地方交付税の減、基金繰入金の大幅な減が予想されています。歳出では、人件費の大幅な削減に努めますが、普通建設事業につきましても、その必要性、緊急度などを検査しながら実施しなければいけないものと考えております。

実施計画につきましてもご説明させていただきます。

実施計画は、基本計画の個別事業の実施予定年度を示すものとして策定されました。5カ年の事業の実施予定期間を示したものでございます。ここに記載

しました内容でございますが、原則としてソフト事業は単年度100万円以上、継続事業の場合は概ね300万円以上、ハード事業は単年度1,000万円以上、継続事業は概ね3,000万円以上を掲載しています。ただ、この実施計画につきましては、現在再度見直しを図っております。6月の地域協議会には、示せるようにしたいと思っておりますのでどうかご理解願います。

以上が、大仙市総合計画の説明でございますが、本日お渡ししてある基本構想・基本計画については、現在印刷作業を進めております。印刷が終了次第、できるだけ早く委員の皆様にも配布させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上で説明とさせていただきます。

加藤会長

ありがとうございました。何かご意見ご質問ありますか。

鈴木委員

財政見通しの市税についてですけれども、どのようにして調べたものですか。

総合政策課長

基本計画の110ページをご覧いただきたいと思っております。109ページから、第3章 財政計画を設けてございます。こちらに、それぞれの財政計画を立てた条件を記載してあります。110ページ、2の財政見通しという項目があります。市税につきましては、国の名目経済成長率見込みは2%と伸びるということになっております。しかし、県内の経済への波及効果は少ないということで、1%に縮小してございます。さらに人口減少による減少を見込んでマイナス1%と見込んで試算してございます。ただ、市税が伸びる理由でございますが、1つは三位一体改革に伴いまして、平成19年度以降所得譲与税相当額が税として以降してきます。平成17年度見込み約75億円に対し、平成22年度では約85億円で約10億円程度の増が見込まれています。このような形で、財政計画を策定しました。

加藤会長

ほかにごいませんか。

小松誠委員

6つの施策の柱のなかで、特にこの大仙市として特色を出しながら力を入れていかなければならない施策がありましたら教えていただきたいです。

総合政策課長

今回の基本構想・基本計画を策定するにあたりまして基本的な考え方は、一番最後の経営方針をご覧いただきたいと思いますが、やはり我々のこれからのまちづくりの基本は市民との協働であるというふうにとらえております。ですから、市民と協働できるような施策の展開を進めてまいりたいと考えております。

また、10年間の構想のなかの重点施策のなかで、特にここでは人口減少という大きな問題がございます。我々としては、できるだけ多くの若者の確保を図ってまいりたいということがあります。1つには、若者の雇用の確保を図ること。もう1つは、子どもたちを育てる環境をつくって若い方々がこの地域に住んでいけるような地域をつくっていきたいと考えています。

加藤会長

ほかにありませんか。

その他に移らせていただきます。今日は、市長さんがみえておりますので、この機会に何か聞きたいことございましたら、発言していただきたいと思いません。

藤原委員

私は、スキー関係に携わっておりまして、今回小中学校がスキー場のシーズン券無料ということは、非常によかったと思います。財政状況もあると思いますが、今後もぜひできる限り続けていただければありがたいと思います。

大台スキー場では、いろんな大会も開催しています。秋田県公認のジュニアの大会も行っておりまして、貴重な予算をいただいて運営しています。今シーズンは、初めて東北マスターズスキー大会ということで、年齢が35歳以上から70歳、80歳までかつての名プレイヤーだったスキーヤーが集まって行う東北大会が2月末に行われました。大変盛況に行われまして、選手側からは非常にいい大会だ、非常にいいグレンデだということで来年以降も続けてほしいという要望が多くありました。実際は役員はボランティア活動でして運営していくのは大変なんですけれども、秋田県スキー連盟側からも大会を続けてほしいという話がでています。そういった面で、スキー大会の運営側のほうと市のほうとお話し合いをしながら協力いただきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

それから、これは我々のアイディアなんですけど、スキー人口もどんどん減ってきています。先ほど、入湯料の説明で半額だとか無料だとかありましたが、スキー場で小中学校無料シーズン券配布になっていますけれども、希望者にシ

ニア、例えば70歳以上80歳以上もスキー場無料にする。そうすれば、お孫さんを連れてきながら、自分の健康維持管理ですとかスポーツをするということになると思います。温泉だけではなく、スポーツ施設のシニアの方々の半額、無料ということを考えていってもスポーツ振興になるだろうし、人を呼ぶということもできるのではないかと思います。

それから、太田町が花壇について特徴ある活動をしていて全県にも知れ渡っているわけですが、PTAの間で今年から各小学校への花壇づくりの予算がカットされたというような情報が入っています。太田町としては花壇コンクールに関することに支援していくということですが、子どもたちの育成という考えのなかで花壇づくり花づくりということに対して予算がカットされたというのが、合点がいかないというか心配しているところです。それは、各家庭から持ち寄って子どもと一緒に花づくりするというところでやればいいことですが、突然カットというもの非常に寂しいなという感じをもちました。

大仙市長

お答えします。初めて、東北マスターズ大会を開催されて大変いい大会だったという報告を受けております。大変いい試みなので、ぜひ継続するべきではないかと各方面の皆さんから言われています。スポーツ振興の面でも営業面でも非常に効果があるようですので、大台スキー場の目玉行事としていきたいものです。スキー連盟及びたくさんのボランティアの皆さんに協力をいただかなければならないわけですので、その辺をよろしくお願いしたいと思います。大台スキー場は、安全で安心してスキーができるということで非常に評判がいいようですので、積極的に利用を呼びかけていきたいと考えています。

子どもたちのスキーの問題については、無料のシーズン券を配ることによってたくさん子どもたちがスキー場を利用してくれました。美郷町の人たちが何か我々も参加できないだろうかという声がかかっています。美郷町の皆さんにも声をかけながらこの仕組みを拡大していきたいと思っております。

それから、シニアのまだ元気にスキーを滑れる方たちを対象とした無料シーズン券の提案は、非常におもしろいと思います。これは、スキー場の経営の面からもおもしろい考えではないかと思います。生活リゾートと協議をしながら、お客様を喜ばせる1つの目玉として考えてみていいかなという気がしております。

それから、学校花壇の関係の問題ですが、まだ学校あるいはPTAの皆さんの十分説明が行き届いてないような気がいたします。様々取り組んでいる事業を18年度は合体させたり増やしたりしている関係がございまして、単品でやっているものについては予算を削ったり整理したりしているかもしれま

せん。例えば、体験的学習時間支援事業というような形で、総合的学習支援事業とチャレンジサポート事業を統合して事業を膨らませております。学校の自由枠として1校30万円程度を均等にお渡しするということで予算措置しております。学校関係が窮屈にならないような予算措置をさせていただいておりますので、こうした中で花壇の問題も解決できるのではないかと考えております。18年度予算も決まりましたので、教育委員会を通じて学校PTAの皆さんに使い方とか仕組みの説明がなされるのではないかと思いますので、よろしくお願いいたします。

藤原委員

ありがとうございます。ちなみに、太田東小学校が去年学校花壇を作るので40万円かかっています。これも、PTA内で話し合っていきたいと思います。

大仙市長

それぞれの地区で、特色ある学校づくりということになりますと、別の形で相談していけるのかなという気がいたします。

それから、花いっぱい運動ということで、旧5地区くらいで活動しているということで、太田地域でもこの花いっぱい運動の関係で130万ほど予算措置しております。そういった部分からも活用できるのではないかと気がいたします。いろいろな面で配慮しているつもりですが、まだ対応できない部分が総合支所を通じて相談にのっていかねばならないと考えています。学校関係につきましては、様々な学習支援、情報パソコンの指導者や障害をもった子どもたちの普通学校への対応ということが問題になっています。先生の資格のある人、講師で勉強中の人、あるいは先生の経験があるOBの人という人材の確保に努めています。18年度から、必要な学校に補助教諭として配置することにし
てあります。

倉田委員

私は、公民館のほうの運営委員をさせていただいております。17年度は研修視察で神岡地区や協和地区の公民館並びに図書館を視察させていただきました。視察を通じて、私たちのほうの公民館施設、図書館の現状を考えると、もう少しリフォームとか、毎日でなくても図書館の司書を置いていただくという方向がないだろうかと思いました。公民館、図書館は中学校に近い場所にありますので、放課後は中学生の利用、特に冬季間は多かったようです。

それから、大人の方々も広報を通して新刊図書を紹介がありますので利用し

てくれているようです。そして、遅れておりました太田地区でも18年度から公民館のホールを使って学童保育をしていくという状況も新しくはいつてきております。そのことも考え合わせますと、図書館の整備をもうちょっと充実させたら、子どもたちへも大人へも、大きな6つの柱になっている「未来を創る心豊かな人をはぐくむまちづくり」に近づいていけるのではないかとということをお願いであります。

大仙市長

市民の皆さんから、各地区のそれぞれの図書を連携させていく仕組みを急がなくてはならないのではないかとご指摘を受けています。ただ、全部コンピュータ処理にしなければいけないということで相当な予算が必要だといわれております。これは、それぞれの地区に図書館がありますので、図書館連携ということで図書館の館長さん会議でも、このことについての協議が真剣になされておりますので、ぜひ糸口をつけていきたいと思っております。

それから、ご指摘の太田公民館の件ですが、総合支所全体のスペースが出てきているので各地域協議会の皆さんと総合支所で余裕スペースの活用といえますか、旧役場庁舎一帯にいろんな施設がありますので、そこにできるだけいろんな人たちが集えるようなところを工夫をお願いしたいと思います。その一環のなかで公民館の問題も考えていただけないでしょうか。

それから、職員の問題ですけれども、司書資格を持っている職員がけっこうおります。資格のある人をできるだけ一人は配置したいという考えであります。図書館で働く人の意欲とか考え方というのは非常に大事だと思います。図書館は子どもさんから高齢者の方まで利用される場所でありますので、いろんな予算がないという問題ではなくて、そこには重点をかけるという考え方でありますので、事情を検討させていただきながら改善に努めてまいりたいと思います。

太田総合支所次長

それでは、私のほうからご説明いたします。実は、今日の会議次第にはなっていませんが庁舎の空いた部屋の使用について1つの案として、図書館を2階のほうにもっていったらどうかという話が出ています。図書館はもってきても、公民館はどうなるのかという問題があります。次回の協議会には、今出ている案を提案して皆さんにご意見をいただきたいというように考えております。

田口委員

担い手確保育成ということで、太田の振興情報センターのほうに支援センタ

ーをつくっていただいて大変ありがとうございます。地元としても、近いところにセンターがあるということは力強い限りです。それで、1つ要望ですが資料をみますと設立時の相談等ということで、設立までは相談にのるようには書いてあります。市長さんもお存知のとおり運営もまた、かなり設立以上に困難なこともありますので、設立時以降もどうか支援をよろしくお願いしたいと思います。また、現在の体制で総合支所のほうの農林振興課と農業振興情報センターとの繋がりが、これからどのようになるのかを伺いたいと思います。

大仙市長

法人化支援センターの件ですけれども、従来の情報センターの機能も一緒になって新規就農の課題についても従来どおりやっていきながら、その5人のメンバーは集落営農法人化に向けた取り組みだけに専念するという形にしております。今の市役所とJAの皆さんと一緒にいろいろな説明会をしておりますけれども、そういうところにはいかないということです。現場で集落営農のリーダー的な人、あるいはそういう地域に入って様々な情報のなかで、具体的に人に入っていくというようなイメージでいるところであります。一緒に市の農林関係それからJAの皆さん、それから振興局でも独立した班みたいなチームを作ります。ここには、大仙市から一人職員を派遣することにしております。ここの連携も含めながら、現場に入る指導員というような形でスタートしていきたいというふうに思います。様々な実際の書類の手続きなども中にはいっていきます。あるいは、法人が設立された後の問題は、県の体制の中で指導者に相談にのってもらおうということになるのではないかと思います。我々メンバーを東と西とに分けて大体3年をひとつの区切りとしています。やりながら様々な調整を加えていきたいと思います。

鈴木委員

子どもたちの登下校について、今いろいろ犯罪があるということで大仙市のなかで子ども見守り隊ということで車で安全を確保しようという活動をやっているように思いますが、先日太田町内で大変な事故があったようです。これは、ある一部の方々しか知らないものですが、できればそのような事件事故があったということは、市民の方々に教えていただきたいと思います。そうすれば、市民も全員で見守るのではないかと思います。

このまえ、某小学校の女の子が下校するときに県道沿いで見知らぬ男の人に手を引っ張られて連れていかれそうになったということがありましたが、あまり知られていませんね。市役所の人方も知らない。それで、ただ防犯、子ども見守り隊でまわって歩いてはわからない。そういうことを、全市民の方に

教えていただきたいと思います。そうすれば、市民の人たちももっと注意するのではないかと思います。ぜひ、そういった事故、事件を教えていただきたいと思います。

大仙市長

わかりました。私もその件をよくわからないでおりましたので、学校ルートでは一定の情報が流れていると思います。今子どもたちの安全・安心の問題も学校だけでは対応できませんので、地域全体で見守り隊とかいろんな形のなかで子どもたちを常時見ていてもらいたいということで、様々な試みをしていただいております。そういう意味で、車にステッカーを貼って、少しでもそのような効果を上げるよう努めています。子どもたちの健全育成に活かしてくださいということで、一昨年大きな寄付をされた方がおります。子どもたちの健全育成に助成ができるような仕組みを教育委員会の中の予算に入っておりますので、この助成を使いながらボランティア組織を立ち上げるなどの対策を考えていかなければならないと思います。

加藤会長

まだまだあろうかと思えますけれども、本日の協議会はこれで閉じたいと思います。どうもありがとうございました。

地域振興課長

お疲れ様でした。次回の開催ですけれども、平成18年度の第1回の開催になると思います。4月20日前後を予定しておりますのでよろしくお願いしたいと思います。今日は、本当にありがとうございました。